

向春草（シマアザミ）による乳腺炎の民間療法

「平成 17 年国土交通省 奄美群島生物資源の産業化ネットワーク調査」の冒頭に「奄美群島は亜熱帯性気候のもと、太古の時代に大陸や日本列島から隔絶され、動植物が独自の進化を遂げてきた地域です。生物の多様性も高く、奄美群島には日本全土の約 35%にあたる約 1600 種の維管束植物が分布しています。また、島野菜や山野草を使った伝統料理、ソテツ味噌や黒糖焼酎などの発酵・醸造食品は、島の風土と歴史の中で生きる知恵が集積して生まれたものです。奄美群島から長寿世界一が 2 名輩出された背景として、多くの植物に薬効を見出し、日常の食生活に取り入れてきた効果等も注目されています。このような奄美群島の特徴ある生物資源を、医薬・食品・醸造・発酵等の分野と結びつけて産業の振興をはかるため、国土交通省が調査しました」とあります。

この調査報告に記載されている民間療法で利用されている種のなかに、シマアザミがあります。学名は *Cirsium brevicaulle* A. Gray です。呼び名は奄美群島内の島々で異なり 13 個あります。

シマアザミによる民間療法としては、すりつぶした葉を乳腺炎や乳房腫に外から貼る。葉や根茎は強壯、解毒、利尿、頭痛、膀胱炎、腎臓病、に薬効がある（内服）とこの報

告書に記載されています。急性の炎症に、外用（薬）としても使われています。この急性の炎症とは体に細菌やウイルスが感染したり、ケガをしたり、やけどをしたり、蜂に刺されたり、などを受けて、発熱したり、局所が赤くなり、腫れたり、痛みが出る病気です。乳腺（母乳を作る）局所にこの急性の炎症が生じる病気が乳腺炎です。シマアザミの葉をすりつぶして、汁がにじみ出るようにしてから貼っていたと思われます。シマアザミの葉、根茎には炎症を抑える成分、ポリフェノールの一種であり、フラボノイドであるペクトリナリンが他の野菜に較べ多く含まれています。凍結乾燥粉末 100 グラム当たり平均 3 グラム（季節により異なります）が含まれています。

ポリフェノールであるフラボノイド類には炎症（発赤、痛み、腫れ、など）を抑える働き、ウイルス、細菌を殺す作用、腫瘍を抑える作用、などもあることが分かっています。フラボノイド類であるジオスミンとヘスペリジンが主成分の治療薬、ダフロン 500（医薬品ですが保険適応なし）が発売されていました。ジオスミンやヘスペリジンは柑橘類の果皮に多く含まれるフラボノイド配糖体で、ジオスミンには血管保護作用があるとされ、慢性静脈不全、痔、リンパ水腫、静脈瘤に使用されます。ちなみにペクトリナリンはこのジオスミンやヘスペリジンと化学構造が非常に似たフラボノイド配糖体で

す。

シマアザミを外用する場合（シップなど）は内服の場合と異なり消化管での吸収、体内での分解など関係なく局所に直接作用します。このシマアザミを利用した奄美の伝統医療、民間医療には医学的根拠があるわけでは、上記以外にも動脈硬化予防、美肌効果、視力回復、血圧低下、アレルギーの改善、毛細血管強化作用、更年期症状の緩和、脂肪の消化の促進、などが知られています。

表1 市販野菜可食部の総ポリフェノール含量

野菜	g/100g, 凍結乾燥試料
ニンジン	0.30
キュウリ	0.47
ダイコン	0.63
レタス	0.75
キャベツ	0.84
ネギ	0.86
ニラ	0.94
ブロッコリ	1.12
ホウレンソウ	1.80
ナス	2.52
ゴボウ	3.40
シュンギク	4.58

2000年11月に購入した市販野菜の可食部の凍結乾燥試料についてフォーリン・チオカルト法で定量し、クロロゲン酸当量値で表示。

(国立研究開発法人 農業・食品産業
技術総合研究機構)

(担当：医療法人徳洲会
全南病院長 上山康男)